

2. モニタリング実施間隔：10年

番号	計画区	保護林区分	保護林名称	面積 (ha)	確認出来た影響	評価
1	利根上流	生態	利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域	11,653.77	影響なし	森林植生を代表するオオシラビソ群落、ブナ群落、山頂域に成立している高山ハイデ・風衝地植物群落、雪田植物群落等について、大きな変化は認められなかった。動物調査についても変化は確認されず、保護林は健全な状態で維持されている。
	中越			8,432.00	影響なし	
2	利根上流	希少	谷川岳サワグルミ遺伝資源希少個体群保護林	8.28	影響なし	高木層のサワグルミは健全に生育しており、今後も大規模な出水や斜面崩壊が生じれば更新する可能性が高いことから、保護林は健全な状態で維持されている。
3	利根上流	希少	玉原アスナロ希少個体群保護林	5.73	影響なし	高木層のアスナロは純林状に健全に生育しており、今後も中齢から高齢木からなる林相に変化していくと考えられ、保護林は健全な状態で維持されている。
4	利根上流	希少	法師クロベ希少個体群保護林	17.41	影響なし	高木層のクロベ大径木は健全に生育しており、実生も確認されていることから、保護林は健全な状態で維持されている。
5	上越	希少	犬ヶ岳ホンシヤクナゲ希少個体群保護林	115.00	影響なし	ホンシヤクナゲは稜線上のクロベ、ハイマツの風衝低木林縁、オオシラビソ等の亜高木林下に広く分布しており、保護林は健全な状態で維持されている。
6	上越	希少	蓮華ライチョウ希少個体群保護林	974.82	影響なし	ライチョウの繁殖環境であるハイマツ群落や、隣接する高山ハイデ・風衝草原、雪田草原等に大きな変化は認められず、保護林は健全な状態で維持されている。
計			6箇所			

1 利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域

<p>保護林の概要 (設定目的)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：新潟県魚沼市・南魚沼市、群馬県利根郡みなかみ町(中越森林管理署、利根沼田森林管理署 159 林班い小班外) ・目的：ブナ・オオシラビソ・コメツガ・クロベ・キタゴヨウ等の原生的な天然林と雪田植物群落湿原植生、ササ群落など豊富な植生が分布している。このため、これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定する。
<p>設定年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定年：1990 年(H1)
<p>調査実施時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年(H21) ・2014 年(H26・利根上流森林計画区) ・2016 年(H28・中越森林計画区) ・2019 年(H31)
<p>法令等の指定概況</p>	<p>水源かん養保安林、国定公園第 1 種特別地域、国定公園第 2 種特別地域、国定公園特別保護地区、国立公園第 2 種特別地域、国立公園特別保護地区、自然環境保全地域特別地区、県自然環境保全地域特別地区、県立自然公園第 1 種特別地域、県立自然公園第 2 種特別地域、県立自然公園第 3 種特別地域、鳥獣保護区特別保護地区、文化財保護法に基づく史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区</p>
<p>今年度の調査結果</p>	<p>・調査プロットは第 1 回モニタリング地点(2008 年度設置)を活用する。利根上流森林計画区では、オオシラビソが生育する林分に設定されているほか、高山ハイデ・風衝地植物群落、雪田植物群落などに設定されている。中越森林計画区では、平ヶ岳方面にオオシラビソ林に 2 箇所、雪田草原、湿原植生、ハイマツ林、オオシラビソ林に各 1 箇所設定されている。</p>
	<p>■丹後山方面</p>
	<p>【G005-1【継続】オオシラビソ群落</p> <p>標高：2,113m、斜面方位：NW、傾斜：12、地形：山腹平衡斜面</p> <p>樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亜高木層は高さ 2～7m、胸高直径は 4～30cm(最大はオオシラビソ)で、オオシラビソのみが生育していた。 ・胸高直径 18 cm以上の立木本数は 90 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 100%、草本層の植被率は 40%、優占種はチシマザサで、他にオオバスノキ、クロウズゴ、オオシラビソ等 21 種生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 100%、草本層の植被率は 20%、優占種はチシマザサで、他にオオバスノキ、アカミノイヌツゲ、オオシラビソ等 19 種が生育していた。

今年度の 調査結果	<p>【G005-2〔継続〕：】高山ハイデ・風衝地植物群落（ミヤマノガリヤス群落） 標高 1,785～2,350m、斜面方位：SE、傾斜：17°、地形：山頂緩斜面、調査面積：1×1m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は60%で、ミヤマノガリヤスが優占し、ミヤマノガリヤス、ミヤマウイキョウ、タテヤマスゲ等7種が生育していた。 ・調査時期を7月中旬から8月上旬に変更したため、種数が2種から7種へ増加した。
	<p>【G005-3〔継続〕】雪田植物群落（タテヤマスゲ群落→イワイチョウ群落） 標高 1,777～1,828m、斜面方位：E、傾斜：5°、地形：山頂域の凹地、調査面積：1×1m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は80%で、イワイチョウが優占し、タテヤマスゲ、ミヤマノガリヤス、ミヤマウイキョウの4種が生育していた。 ・調査時期を7月中旬から8月上旬に変更したため、種数が3種から4種へ増加し、優占種がタテヤマスゲからイワイチョウに変化した。
	<p>【G005-5〔継続〕】雪田植物群落（イワイチョウ群落） 標高 1,777～1,828m、斜面方位：E、傾斜：4°、地形：山頂域の凹地、調査面積：1×1m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は50%で、イワイチョウが優占し、マイヅルソウ、タテヤマスゲ、ミヤマウイキョウ等8種が生育していた。
	<p>【G005-6〔継続〕】雪田植物群落（コバイケイソウ群落） 標高 1,777～1,828m、斜面方位：NE、傾斜：6°、地形：緩斜面、調査面積：2×2m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は100%で、コバイケイソウが優占し、タテヤマスゲ、マイヅルソウ、オオバショリマ等9種が生育していた。 ・調査時期を7月中旬から8月上旬に変更したため、種数が5種から9種へ増加した。
	<p>【G005-7〔継続〕】雪田植物群落（マルバウスゴ低木群落→タテヤマスゲ-ミヤマノガリヤス群落） 標高 1,777～1,828m、斜面方位：SE、傾斜：15°、地形：緩斜面、調査面積：2×2m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は90%で、タテヤマスゲとミヤマノガリヤスが同被度で優占し、マイヅルソウ、コバイケイソウ等10種が生育していた。 ・調査時期を7月中旬から8月上旬に変更したため、タテヤマスゲ等が展葉して、優占種がマルバウスゴからタテヤマスゲ、ミヤマノガリヤスに変化した。
	<p>【G005-8〔継続〕】ササ自然草原（チシマザサ群落） 標高 1,783m、斜面方位：S、傾斜：5°、地形：緩斜面、調査面積：1×1m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は100%で、チシマザサが優占し、マルバウスゴ、ミツバオウレン、オオイワカガミ等9種が生育していた。 ・調査時期を7月中旬から8月上旬に変更したため、種数が5種から9種へ増加した。
	<p>【G005-10〔継続〕】雪田植物群落（モミジカラマツ群落→モミジカラマツ-イワイチョウ群落） 標高 1,777～1,828m、斜面方位：NE、傾斜：35°、地形：緩斜面、調査面積：1×1m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は100%で、前回優占種のモミジカラマツに加え、イワイチョウが優占し、コバイケイソウ、ミヤマウイキョウ、タテヤマスゲ、ダイモンジソウ等13種が生育していた。 ・調査時期を7月中旬から8月上旬に変更したため、種数が8種から13種へ増加し、前回の優占種であるモミジカラマツに加え、イワイチョウも優占種となった。

<p>今年度の 調査結果</p>	<p>【G005-12〔継続〕】雪田植物群落（ヌマガヤ群落） 標高 1,777～1,828m、斜面方位：S、傾斜：10°、地形：緩斜面、調査面積：1×1m ・草本層の植被率は 100% で、ヌマガヤが優占し、イワイチョウ、タテヤマスゲ等 8 種が生 育していた。</p>
	<p>■平ヶ岳方面</p>
	<p>【G005-13〔継続〕】湿原植物群落（ショウジョウスゲ群落） 標高 2,144～2,146m、斜面方位：－、傾斜：0°、地形：平坦地、調査面積：1×1m ・草本層の植被率は 95% で、ショウジョウスゲが優占し、イワイチョウ、チングルマ、キン コウカ等 12 種が生育していた。 ・調査時期を 7 月中旬から 8 月上旬に変更したため、種数が 9 種から 12 種へ増加した。</p>
	<p>【G005-15〔継続〕】湿原植物群落（エゾホソイ群落） 標高 2,144～2,146m、斜面方位：－、傾斜：0°、地形：平坦地、調査面積：1×1m ・草本層の植被率は 20% で、池塘の水域内にエゾホソイが優占し、イワイチョウ、ショウジ ヨウスゲ、ハクサンコザクラ等 7 種が生育していた。 ・調査時期を 7 月中旬から 8 月上旬に変更したため、種数が 3 種から 7 種へ増加した。</p>
	<p>【G005-17〔継続〕】湿原植物群落（イワイチョウ群落→チングルマ群落） 標高 2,144～2,146m、斜面方位：W、傾斜：5°、地形：平坦地、調査面積：1×1m ・草本層の植被率は 60% で、チングルマが優占し、イワイチョウ、キンコウカ、ハクサンコ ザクラ等 7 種が生育していた。 ・調査時期を 7 月中旬から 8 月上旬に変更したため、優占種がイワイチョウからチングルマ に変化した。</p>

今年度の調査結果	<p><中越森林計画区> ■丹後山方面</p>
	<p>【N005-5〔継続〕】ブナ群落 標高 699m、斜面方位：NW、傾斜：31、地形：山腹平衡斜面 樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ 15～24m、胸高直径 15～51cm(最大はブナ)で、ブナ、ウダイカンバ等が生育していた。亜高木層は高さ 9～12m、胸高直径 10～11 cmで、ブナのみが生育していた。 ・胸高直径 18 cm以上の立木本数は 440 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 40%、草本層の植被率は 30%、優占種はアクシバで、他にイワウチワ、ホソバカンスゲ、シシガシラ等 21 種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 25%、草本層の植被率は 30%、優占種はオオバクロモジで、他にウリハダカエデ、イワウチワ、イワガラミ等 22 種が生育していた。
	<p>【N005-7〔継続〕】自然低木群落 標高 1,264m、斜面方位：NE、傾斜：60°、地形：やせ尾根、調査面積：4×2m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低木層の植被率は 90%で、マルバマンサクが優占し、ミヤマナラ、ウラジロヨウラク等 9 種が生育していた。 ・草本層の植被率は 60%で、ヤマナラが優占し、ハクサンシャクナゲ、ブナ等 29 種が生育していた。
	<p>■平ヶ岳方面</p>
	<p>【N005-1〔継続〕】オオシラビソ群落 標高 1,714m、斜面方位：SE、傾斜：10、地形：山腹平衡斜面 樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ 12～17m、胸高直径 25～65cm(最大はダケカンバ)で、オオシラビソ、ダケカンバ等が生育していた。亜高木層は高さ 7～10m、胸高直径 4～45 cmで、キタノテツカエデ、ダケカンバ、ミネカエデ等が生育していた。 ・胸高直径 18 cm以上の立木本数は 210 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 90%、草本層の植被率は 30%、優占種はチシマザサで、他にマイヅルソウ、ヤマソテツ、オオカメノキ等 18 種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 90%、草本層の植被率は 45%、優占種はチシマザサで、他にヤマソテツ、クロヅル、キタノテツカエデ等 20 種が生育していた。
	<p>【N005-3〔継続〕】雪田植物群落（チングルマ-カニツリノガリヤス群落） 標高 2,111m、斜面方位：NE、傾斜：12°、地形：山頂緩斜面、調査面積：1×1m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草本層の植被率は 80%で、チングルマが優占し、カニツリノガリヤス、イワイチョウ、シヨウジョウスゲ等 10 種が生育していた。

<p>今年度の調査結果</p>	<p>【N005-4〔継続〕】 湿原植物群落（ミヤマホタルイ群落） 標高 2,119m、斜面方位：E、傾斜：12°、地形：山頂緩斜面、調査面積：1×1m ・草本層の植被率は 60%で、ミヤマホタルイ、キンコウカ、イワイチョウが同被度で出現する。11 種が生育していた。</p> <p>【N005-8〔継続〕】 ハイマツ群落 標高 2,086m、斜面方位：－、傾斜：0°、地形：山頂緩斜面、調査面積：2×4m ・低木層の植被率は 95%で、ハイマツが優占し、オオバスノキ、ハクサンシャクナゲ等 7 種が生育していた。 ・草本層の植被率は 80%で、チシマザサが優占し、オオシラビソ、ゴゼンタチバナ等 7 種が生育していた。</p> <p>動物調査 利根上流森林計画区と中越森林計画区の調査実施年度の統合にあたり、ルートの再選定を行った。</p> <p>【哺乳類】 ・ トウホクノウサギ(糞・撮影)、ニホンリス(撮影)、ツキノワグマ(撮影)、ホンドギツネ(糞)、テン(撮影)、オコジョ(糞、足跡)、ハクビシン(撮影)、ニホンイノシシ(痕跡・撮影)、ニホンジカ(糞・目撃・食痕・足跡・撮影)、カモシカ(撮影)等の 13 種を確認した。</p> <p>【鳥類】 ・ ルート 1(丹後山)：カケス、ヤブサメ、クロジ等の 9 種を確認した。 ・ ルート 2(平ヶ岳)：アマツバメ、ホシガラス、メボソムシクイ等の 9 種を確認した。</p> <p>【両性類】 ・ ヤマアカガエル(目撃)、モリアオガエル(目撃・鳴声)の 2 種を確認した。</p> <p>【爬虫類】 ・ ニホンカナヘビ(目撃)、ニホンマムシ(目撃)の 2 種を確認した。</p>
<p>課題・評価</p>	<p>・ 本保護林を代表する森林植生は、高標高域はオオシラビソの優占した植物群落、低標高域はブナの優占した群落であるが、いずれの森林調査地点も前回調査時と比較して大きな変化は見られなかった。但し、過去のナラ枯れの影響で消失したミズナラについては、ブナ群落内において後継樹は確認されなかった。</p> <p>・ 山頂域に成立している高山ハイデ・風衝地植物群落、雪田植物群落、ササ自然草原、湿原植物群落については、群落構造に大きな変化は認められなかった。</p> <p>・ 利根川上流森林計画区では、前回調査を実施した 7 月中旬はスゲ類の展葉前であったため、調査時期を 8 月上旬に変更し、多くの調査地点で確認種数が増加した。今後の調査についても、調査時期は 8 月上旬前後とすることが望ましい。</p> <p>・ 動物調査において、哺乳類の確認種数が 7 種から 13 種へ増加した。</p> <p>・ 今年度の調査の結果、本保護林は良好な状態が維持されている。</p> <p>・ 確認できた評価：[影響なし]（調査間隔は 10 年）</p>

現地写真
(利根上
流森林計
画区)

G005-1 オオシラビソ群落



G005-1 林況

G005-2 ミヤマノガリヤス群落



G005-2 林況

G005-3 タテヤマスゲ群落→イワイチョウ群落



G005-3 林況

現地写真
(利根上
流森林計
画区)

G005-5 イワイチョウ群落



G005-5 林況

G005-6 コバイケイソウ群落



G005-6 林況

G005-7 マルバウスゴ低木群落→タテヤマスゲ-ミヤマノガリヤス群落



G005-7 林況

現地写真
(利根上
流森林計
画区)

G005-8 チシマザサ群落



G005-8 林況

G005-10 モミジカラマツ群落→モミジカラマツ-イワイチョウ群落



G005-10 林況

G005-12 ヌマガヤ群落



G005-12 林況

現地写真
(利根上
流森林計
画区)

G005-13 ショウジョウスゲ群落



G005-13 林況

G005-15 エゾホソイ群落



G005-15 林況

G005-17 イワイチョウ群落



G005-17 林況

現地写真
(中越森
林計画
区)

N005-1 オオシラビソ群落



N005-1 林況

N005-3 チングルマ-カニツリノガリヤス群落



N005-3 林況

N005-4 ミヤマホタルイ群落



N005-4 林況

現地写真
(中越森
林計画
区)

N005-5 ブナ群落



N005-5 林況

N005-7 自然低木群落



N005-7 林況

N005-8 ハイマツ群落



N005-8 林況

現地写真

動物調査



カケス (羽)



ヤマアカガエル

自動撮影カメラ



ツキノワグマ



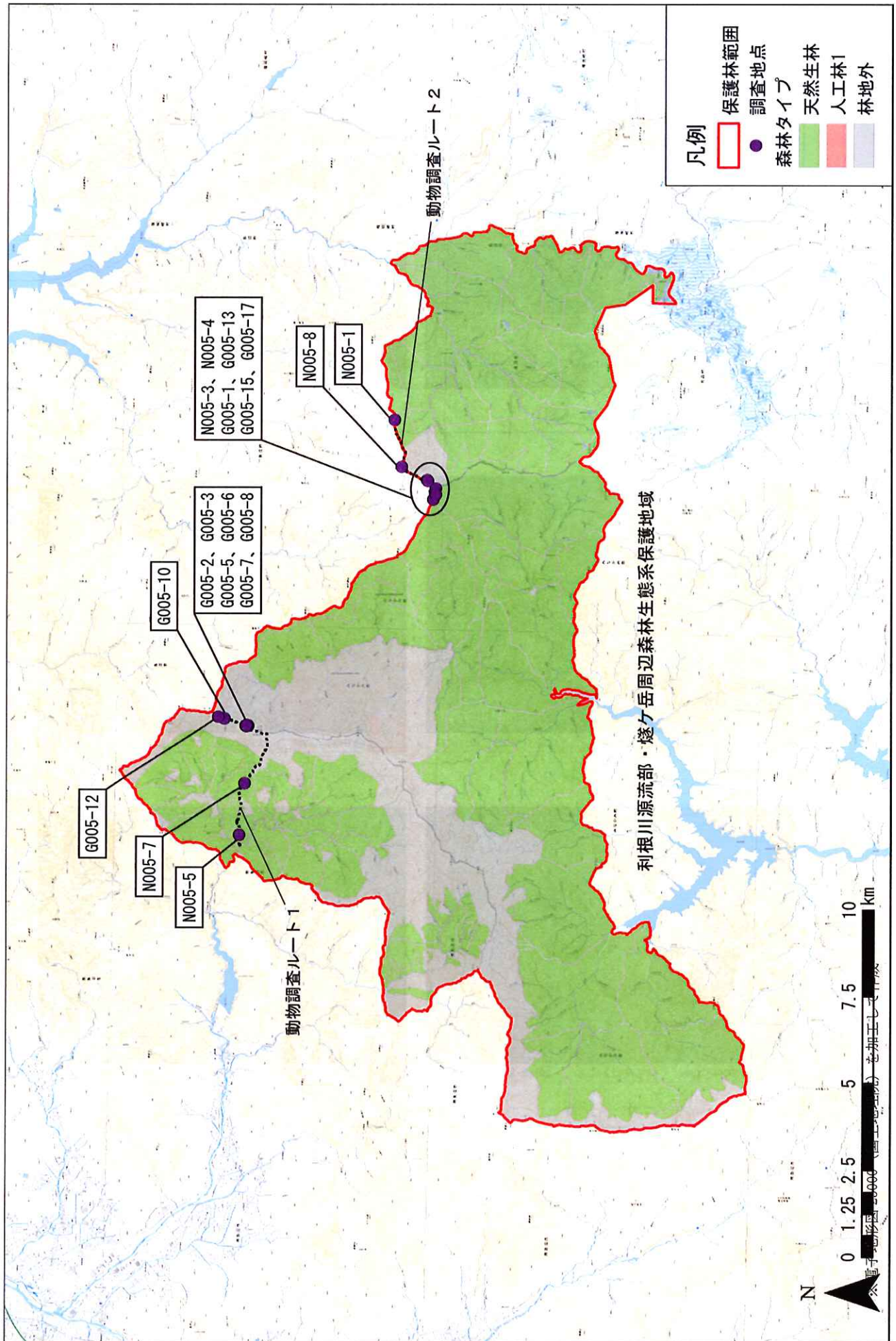
トウホクノウサギ



ニホンジカ



カモシカ



2 谷川岳サワグルミ遺伝資源保護林

<p>保護林の概要 (設定目的)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：群馬県利根郡みなかみ町(利根沼田森林管理署 群馬県利根郡みなかみ町湯吹山国有林 319 林班ろ 1 小班) ・目的：崖錐堆積地といった特殊な立地に成立している群落で、南東北及び関東地方におけるサワグルミの遺伝資源の保護において極めて貴重である。このため、サワグルミが群生する群落の希少な個体群を保護するため設定した。
<p>設定年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定年：1990 年(H2) ・名称変更：2018 年(H30)
<p>調査実施時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年(H21) ・2014 年(H26) ・2019 年(H31)
<p>法令等の指定概況</p>	<p>保健保安林、国立公園普通地域、鳥獣保護区</p>
<p>今年度の調査結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回モニタリング地点(2008 年度設置)を活用する。調査プロットは、サワグルミが生育する林分に 2 地点設定されている。
	<p>【033-1〔継続〕】サワグルミ群落</p> <p>標高：727m、斜面方位：NE、傾斜：23°、地形：山脚堆積面</p> <p>樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ 21～29m、胸高直径 27～53 cm(最大はサワグルミ)で、サワグルミ、ウダイカンバ等が生育していた。亜高木層は高さ 10～19m、胸高直径 14～43cm で、サワグルミ、オヒョウ、ミズキ等が生育していた。 ・高木層・亜高木層を構成する胸高直径 18 cm以上のサワグルミ(最大直径 53 cm)は 14 本生育していた。 ・小円部の胸高直径 4 cm以下のサワグルミは 100 本/ha 程度の密度で生育していた。 ・胸高直径 18 cm以上の立木本数は 380 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 25%、草本層の植被率は 90%、優占種はリョウメンシダで、他にチシマザサ、ジュウモンジシダ、ツルアジサイ等 14 種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 20%、草本層の植被率は 80%、優占種はジュウモンジシダで、他にリョウメンシダ、チシマザサ、オシダ等 21 種が生育していた。

<p>今年度の調査結果</p>	<p>【033-2〔継続〕】 サワグルミ群落 標高：737m、斜面方位：NE、傾斜：23°、地形：山脚堆積面</p> <p>樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ 20～26m、胸高直径 28～63 cm(最大はトチノキ)で、サワグルミのみが生育していた。亜高木層は高さ 8～17m、胸高直径 10～40cm で、サワグルミ、トチノキ、ミズキ等が生育していた。 ・高木層・亜高木層を構成する胸高直径 18 cm以上のサワグルミ(最大直径 61 cm)は 21 本生育していた。 ・小円部の胸高直径 4 cm以下のサワグルミは 500 本/ha 程度の密度で生育していた。 ・胸高直径 18 cm以上の立木本数は 350 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 25%、草本層の植被率は 95%、優占種はリョウメンシダで、他にジュウモンジシダ、ミヤマイラクサ、ウワバミソウ等 12 種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 30%、草本層の植被率は 95%、優占種はリョウメンシダで、他にジュウモンジシダ、ミヤマイラクサ、ツルアジサイ等 15 種が生育していた。
<p>課題・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層ではサワグルミは健全に生育しているが、亜高木層や低木層では少なく、稚樹・実生はほとんど確認されなかった。 ・保護林の表層土壌には、径の大きな岩石が多く含まれており、過去の大規模な出水や斜面崩壊により、現在の群落が成立している可能性が高い。 ・高木層のサワグルミは健全に生育していることから、保護対象種の遺伝資源保全上の大きな問題は生じておらず、今後も大規模な出水や斜面崩壊が生じれば更新する可能性が高い。 ・今年度の調査の結果、本保護林は良好な状態が維持されている。 ・確認できた評価：[影響なし] (調査間隔は 10 年)

現地写真

033-1 サワグルミ群落

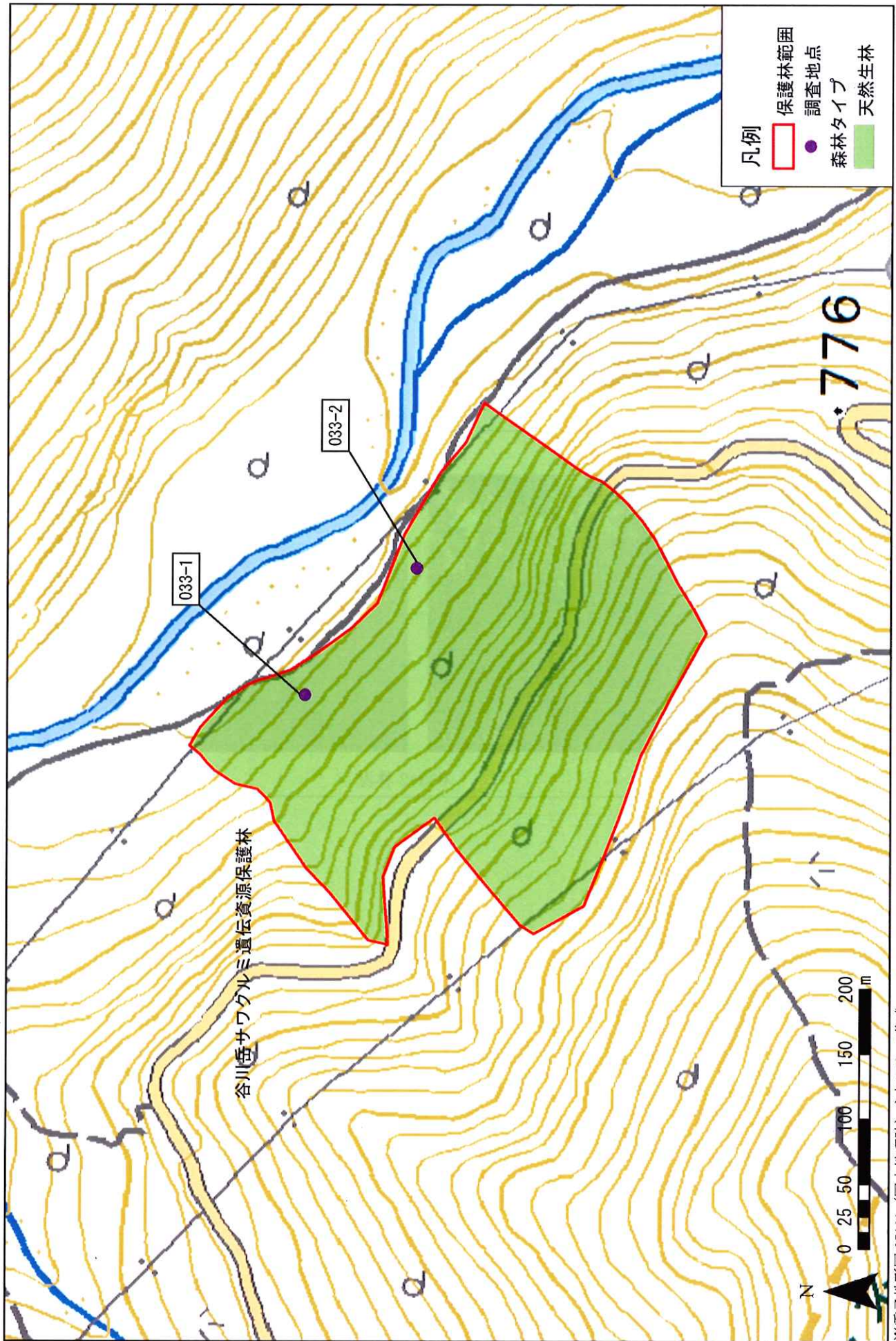


033-1 林況

033-2 サワグルミ群落



033-2 林況



3 玉原アスナロ希少個体群保護林

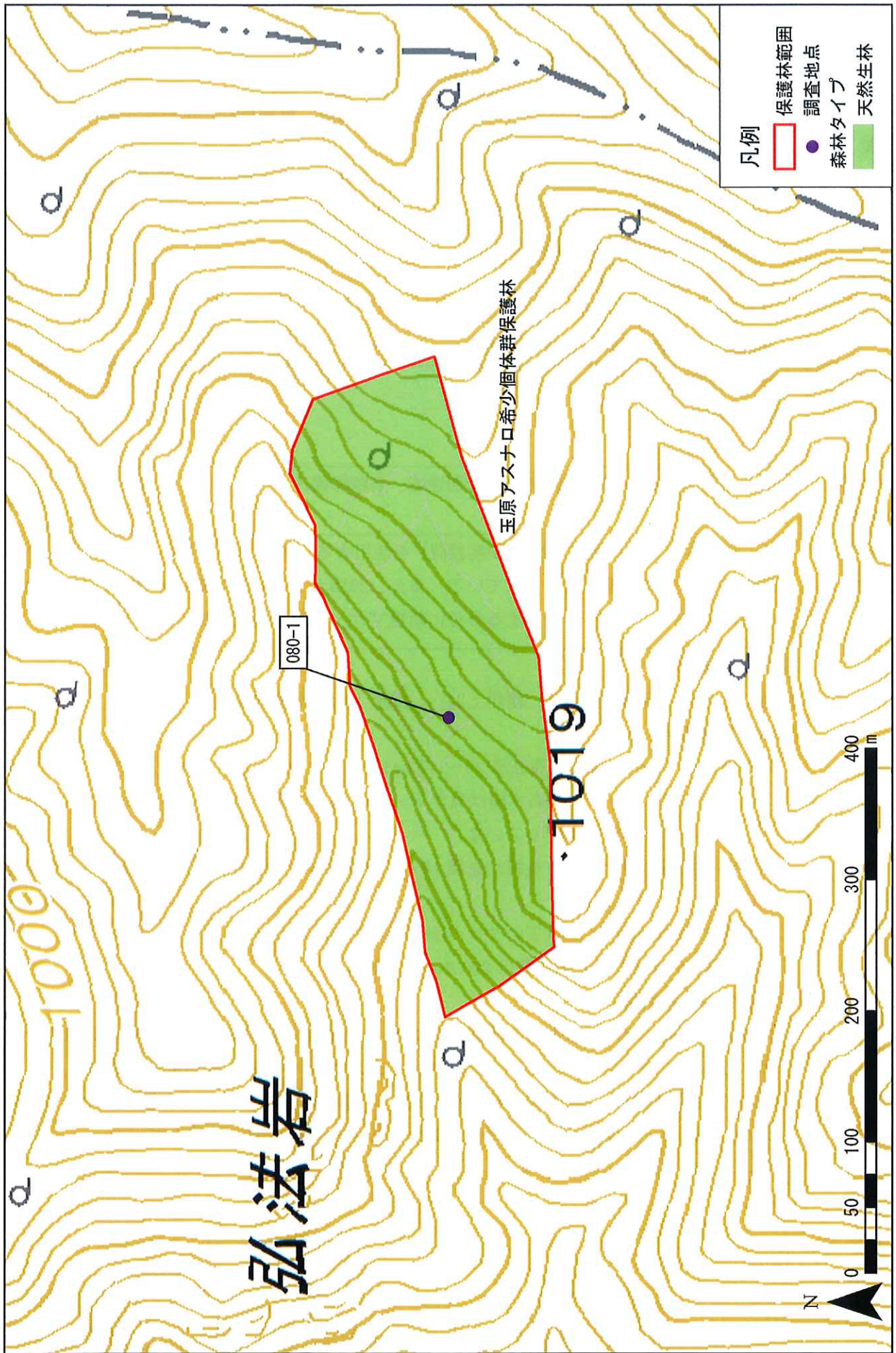
保護林の概要 (設定目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・場所: 群馬県沼田市(利根沼田森林管理署 群馬県沼田市迦葉山丙ノ1 国有林 17 林班わ外) ・目的: 天然生アスナロの伏条更新が良好な林分で、原生林に準ずる林相を有し、学術上及び森林施業上の考証として貴重である。このため、アスナロが群生する群落の希少な個体群を保護するため設定した。
設定年	<ul style="list-style-type: none"> ・設定年: 1934 年(S9) ・名称変更: 1991 年(H3) ・区域拡充・名称変更: 2018 年(H30)
調査実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年(H21) ・2014 年(H26) ・2019 年(H31)
法令等の指定概況	水源かん養保安林
今年度の調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回モニタリング地点(2008年度設置)を活用する。調査プロットは、アスナロが生育する林分に1地点設定されている。 <p>【080-1【継続】:アスナロ群落】(標高1,014m) 標高:1,014m、斜面方位:NW、傾斜:31°、地形:山腹凹斜面</p> <p>樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ17~27m、胸高直径23~78cm(最大はクリ)で、アスナロ、トチノキ、ホオノキ等が生育していた。亜高木層は高さ14m程度、胸高直径16~21cmで、アスナロのみが生育していた。 ・高木層・亜高木層を構成する胸高直径18cm以上のアスナロ(最大直径73cm)は36本生育していた。 ・小円部には胸高直径4cm以下のアスナロは生育していなかった。 ・胸高直径18cm以上の立木本数は500本/haである。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層を欠き、草本層の植被率は20%、優占種はツヤナシイノデで、他にフタリシズカ、ヒトリシズカ、オオカニコウモリ等30種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層を欠き、草本層の植被率は30%、優占種はオシダで、他にマルバフユイチゴ、オオカニコウモリ、ツヤナシイノデ等25種が生育していた。
課題・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護林内には、若齢から中齢木の生育密度が高いアスナロの純林が成立している。樹勢の弱い個体が淘汰されている状態にあるが、今後は中齢から高齢木からなる林相に変化していくと考えられ、保護対象種であるアスナロの遺伝資源保の保存に問題は生じていない。 ・前回調査に引き続きテングス病が確認されたが、被害が拡大する傾向はみられない。(H26年度3個体→H31年度2個体) ・今年度の調査の結果、本保護林は良好な状態が維持されている。 ・確認できた評価:[影響なし](調査間隔は10年)

現地写真

080-1 アスナロ群落



080-1 林況



4 法師クロベ希少個体群保護林

<p>保護林の概要 (設定目的)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：群馬県利根郡みなかみ町(利根沼田森林管理署 群馬県利根郡みなかみ町三国国有林 216 林班え 1 小班、え 2 小班) ・目的：利根上流地域には珍しい、クロベ、コメツガからなる原生林に準ずる森林で、学術上及び森林施業の考証として貴重である。このため、クロベ、コメツガからなる群落の希少な個体群を保護するため設定した。
<p>設定年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定年：1934 年(S9) ・名称変更：1991 年(H3) ・区域拡充・名称変更：2018 年(H30)
<p>調査実施時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年(H21) ・2014 年(H26) ・2019 年(H31)
<p>法令等の指定概況</p>	<p>水源かん養保安林、国立公園第 3 種特別地域、鳥獣保護区</p>
<p>今年度の調査結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回モニタリング地点 (2008 年度設置) を活用する。調査プロットは、クロベ (ネズコ) が生育する林分に 1 地点設定されている。また、2018 年に本保護林範囲が拡大されたため、拡大範囲においてクロベが生育する林分に新規プロットを 1 地点追加で設定した。 <p>【081-1【継続】】クロベ群落</p> <p>標高：1,206m、斜面方位：NE、傾斜：24°、地形：山腹平衡斜面</p> <p>樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ 15～23m、胸高直径 26～115 cm(最大はクロベ)で、クロベ、ミズナラ、ホオノキ等が生育していた。亜高木層は高さ 7～16m、胸高直径 7～86cm で、リョウブ、アオハダ、コミネカエデ等が生育していた。 ・高木層・亜高木層を構成する胸高直径 18 cm以上のクロベ(最大直径 115 cm)は 7 本生育していた。 ・小円部には胸高直径 4 cm以下のクロベは生育していなかった。 ・胸高直径 18 cm以上の立木本数は 200 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 30%、草本層の植被率は 80%、優占種はクマイザサで、他にヤマソテツ、ホソバカンスゲ、シノブカグマ等 22 種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 1%、草本層の植被率は 70%、優占種はクマイザサで、他にシノブカグマ、ツルツゲ、ホソバカンスゲ等 17 種が生育していた。

<p>今年度の調査結果</p>	<p>【081-2〔新規〕クロベ群落</p> <p>標高：1,249m、斜面方位：NE、傾斜：27°、地形：やせ尾根</p> <p>樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木層は高さ 23m 程度、胸高直径は 30～127 cm (最大はクロベ) で、クロベ、ブナ等が生育していた。亜高木層は高さ 15m 程度、胸高直径 20cm 程度で、アオダモ、コシアブラ等が生育していた。 ・高木層・亜高木層を構成する胸高直径 18 cm 以上のクロベ(最大直径 127 cm) は 8 本生育していた。 ・小円部には胸高直径 4 cm 以下のクロベは生育していなかった。 ・胸高直径 18 cm 以上の立木本数は 250 本/ha である。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は 40%、草本層の植被率は 30%、優占種はアズマシャクナゲで、他にクマイザサ、シノブカグマ、ミヤマシグレ等 12 種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は 5%、草本層の植被率は 95%、優占種はクマイザサで、他にシノブカグマ、ホソバカンスゲ、クロベ等 12 種が生育していた。
<p>課題・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本保護林では、高木層のクロベ大径木に、病虫害、気象害、虫害、動物被害等は見られず、尾根上のやや安定した岩上では実生も確認されている。 ・尾根上のクロベ林は、アズマシャクナゲ、アカミノイヌツゲ、リョウブ等の尾根上の貧栄養立地によく出現する種を伴う典型的な群落となっており、保護対象種であるクロベの遺伝資源保の保存に問題は生じていない。 ・今年度の調査の結果、本保護林は良好な状態が維持されている。 ・確認できた評価：[影響なし] (調査間隔は 10 年)

現地写真

081-1 クロベ群落



081-1 林況

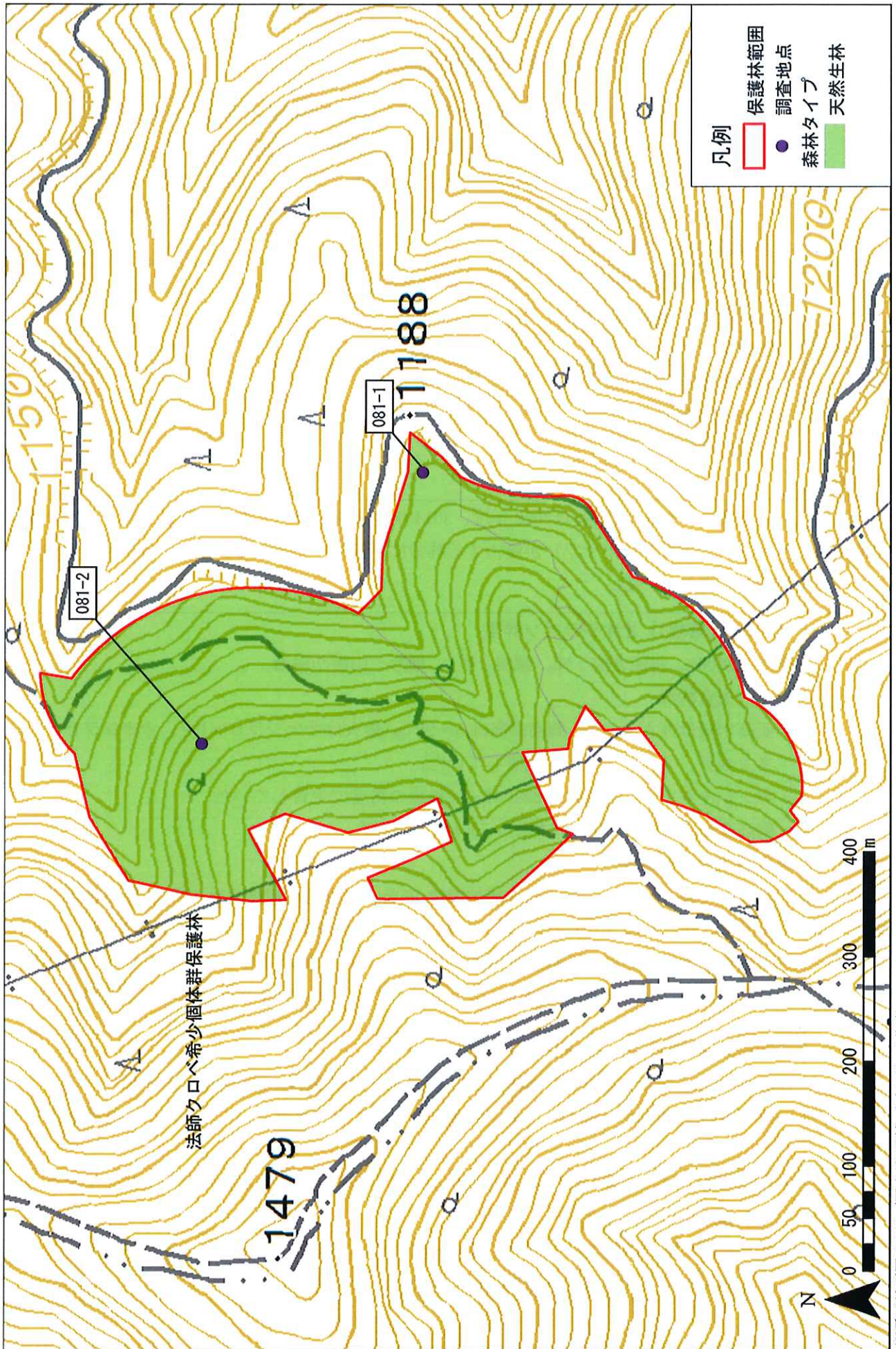
081-2 クロベ群落



081-2 林況

クロベ実生の状況



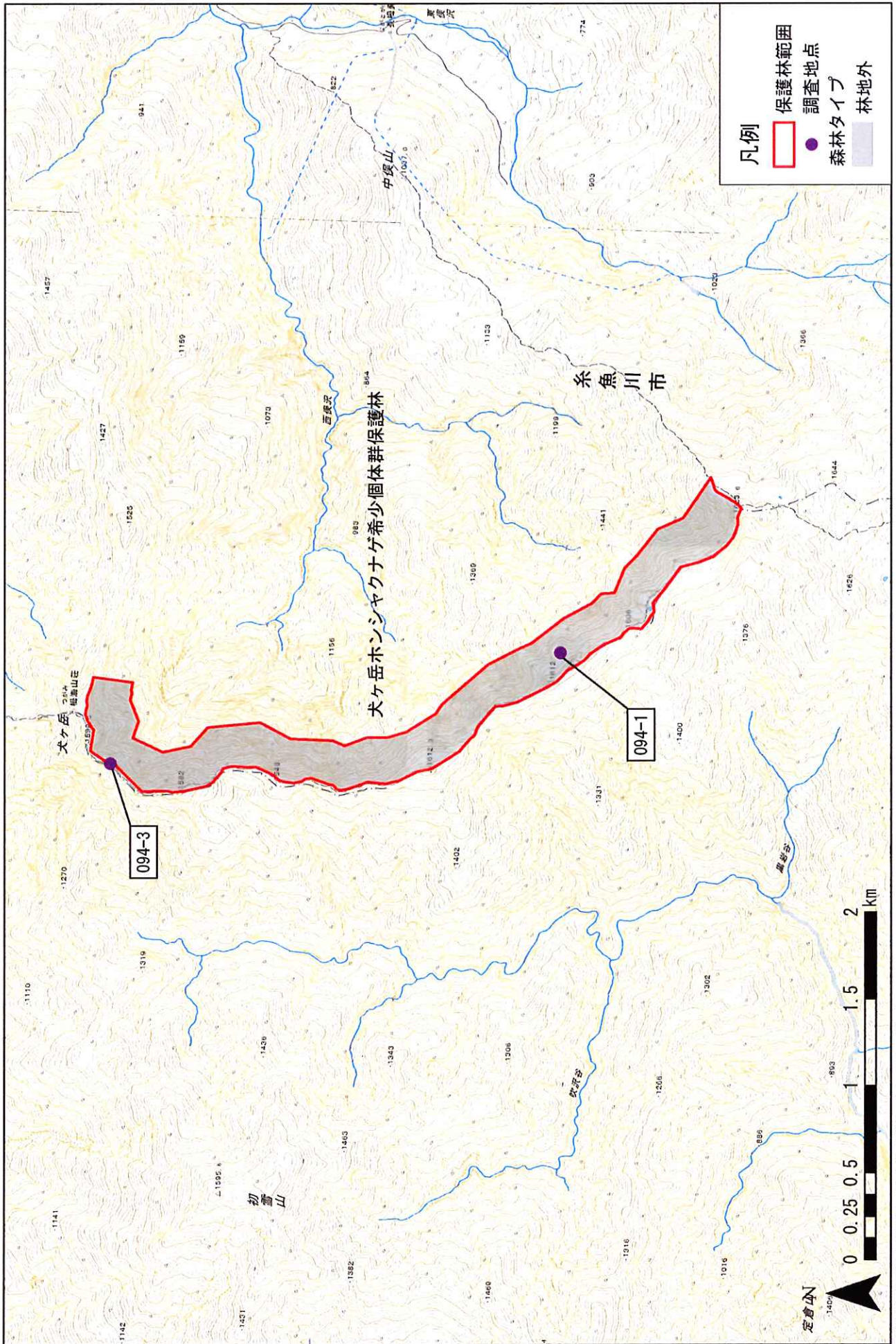


※電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

5 犬ヶ岳ホンシャクナゲ希少個体群保護林

保護林の概要 (設定目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：新潟県糸魚川市(上越森林管理署 新潟県糸魚川市長トガ国有林 108 林班ロ) ・目的：北アルプス北端の犬ヶ岳から黒岩岳を結ぶ稜線の東斜面においてヒメコマツ、クロベ等の点生する天然生林の林下に生育しているホンシャクナゲ群落であり、原生状態を保ち、学術上貴重である。このため、ホンシャクナゲが林下に生育する群落の希少な個体群を保護するため設定した。
設定年	<ul style="list-style-type: none"> ・設定年：1993 年(H5) ・名称変更：2018 年(H30)
調査実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・2008 年(H21) ・2014 年(H26) ・2019 年(H31)
法令等の指定概況	土砂流出防備保安林
今年度の調査結果	<p>・過年度モニタリング地点(2008 年度、2014 年度設置)を活用する。調査プロットはオオシラビソ(アオモリトドマツ)が優占する林分に1箇所、ホンシャクナゲが優占する林分に1箇所設定されている。</p> <p>【094-1【継続】オオシラビソ群落 標高：1600m、斜面方位：NE、傾斜：8°、地形：山腹凸斜面 樹木の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亜高木層は高さ4~8m、胸高直径は5~28cm(最大はオオシラビソ)で、オオシラビソ、ミネカエデ、ミヤマナラ等が生育していた。 ・ホンシャクナゲの稚樹は、2220本/ha程度の密度で生育していた。 ・胸高直径18cm以上の立木本数は70本/haである。 <p>林床植生の生育状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方向の調査区では、低木層の植被率は95%、草本層の植被率は60%、優占種はチシマザサで、他にクルマバハグマ、ミツバオウレン、ゴゼンタチバナ等35種が生育していた。 ・南方向の調査区では、低木層の植被率は100%、草本層の植被率は25%、チシマザサが優占し、他にショウジョウバカマ、ホンシャクナゲ、マイヅルソウ等29種が生育していた。 <p>【094-3【継続】ホンシャクナゲ群落 標高1,574m、斜面方位：NW、傾斜：27°、地形：やせ尾根、調査面積：5×2m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低木層の植被率は70%で、クロベが優占し、他にナナカマド、ミネカエデの2種が生育していた。 ・草本層第1層の植被率は70%で、ホンシャクナゲが優占し、他にミネカエデ、ナナカマド等5種が生育していた。 ・草本層第2層の植被率は40%で、オオイワカガミが優占し、他にミヤマママコナ、アカモノ、ホンシャクナゲ等11種が生育していた。

<p>課題・ 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本保護林では、ホンシャクナゲは稜線上のクロベやハイマツの風衝低木林縁に広く生育が確認された。また、オオシラビソ等の亜高木林下にも、生育量は少ないながらも上層が開けた箇所に比較的高い密度で生育しており、保護対象種であるホンシャクナゲの遺伝資源保の保存に問題は生じていない。 ・今年度の調査の結果、本保護林は良好な状態が維持されている。 ・確認できた評価：[影響なし]（調査間隔は10年）
<p>現地写真</p>	<p>194-1 オオシラビソ群落</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">194-1 林況</p>
	<p>194-3 ホンシャクナゲ群落</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">194-3 林況</p>



※電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

6 蓮華ライチョウ希少個体群保護林

保護林の概要 (設定目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：新潟県糸魚川市(上越森林管理署 新潟県糸魚川市大所・蓮華国有林 100 林班イ外) ・目的：長楯山～三国境～蓮華山～白馬大池に連なる稜線で、ハイマツ及び白馬山系高山植物体帯(高山荒原雪田群落)を保全し、ライチョウ及びその生息環境を保護するため設定した。
設定年	<ul style="list-style-type: none"> ・設定年：1974年(S49) ・名称変更：2018年(H30)
調査実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年(H26) ・2019年(H31)
法令等の指定概況	水源かん養保安林、鳥獣保護区特別保護地区、文化財保護法に基づく史跡名勝天然記念物区
今年度の調査結果	<p>・森林調査箇所は、調査箇所は、ライチョウが好んで利用する、丈の低いハイマツがパッチ状に分布し、その周辺に矮性低木が優占した風衝地とした。動物調査箇所は前回は長楯山から白馬大池までの稜線としているが、稜線を縦走するため、調査に数日を要する。このため、白馬岳登山のメインルートであり、登山者数も多く、ライチョウの生息環境に与える影響がより大きいと考えられる、白馬大池付近の保護林境から白馬岳への分岐となる三国境付近までとした。</p> <p>【森林調査結果の概要】</p> <p>本保護林に成立している植生タイプとして、ハイマツ(低)群落、高山ハイデ・風衝草原、雪田草原、高茎草原、風衝低木林が確認された。ハイマツ(低)群落としては、群落高 0.4m 程度のハイマツ群落、高山ハイデ・風衝草原、雪田草原としては、チングルマ群落、ウラシマツツジ群落、高茎草原としてはコバイケイソウ群落、風衝低木林としてはキバナシャクナゲ群落、ミヤマハンノキ群落、タカネナナカマド群落が確認された。本保護林に分布しているハイマツ群落は、群落高が低いものが多く、ライチョウの繁殖環境として好適な状態が保たれていると考えられる。また、ハイマツ群落に接して、高山ハイデ・風衝草原、雪田草原、高茎草原、風衝低木林、ガレ場など、ライチョウの採餌、休息、砂浴びの場となる環境が分布しており、多様な植生環境を必要とするライチョウの生息環境は良好に保たれていると考えられる。</p> <p>【動物調査結果の概要】</p> <p>保護対象種であるライチョウは、本調査では成鳥♂2 個体と成鳥♀1 個体の計 3 個体確認された。また、ライチョウの羽根を 2 箇所を確認した。他には、ホシガラス、イワヒバリ、メボソムシクイといった高山帯に見られる種が確認され、中部山岳の高山帯に一般的な鳥類相にあることが確認された。一方で、ライチョウの天敵となる、キツネ、テンの糞も確認された。</p>

<p>今年度の 調査結果</p>	<p>【文献・聞き取り調査結果の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年に朝日岳一帯におけるライチョウ生息数調査を実施している。保護林の北部を含む調査地域の推定生息数は2011年より5%減となったが、減少は残雪の影響によるもので、生息環境は安定していると考えられる。(富山県生活環境文化部自然保護課)
<p>課題・ 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイマツ群落は、前回調査から群落高・被度の変化はなく、ライチョウの繁殖環境として好適な群落高が低い状態が保たれている。 ・ハイマツ群落に接する、高山ハイデ・風衝草原、雪田草原、高茎草原、風衝低木林、ガレ場など、ライチョウの採餌、休息、砂浴びの場となる群落についても変化はなく、保護対象種であるライチョウの生息環境に問題は生じていない。 ・今年度の調査の結果、本保護林は良好な状態が維持されている。 ・確認できた評価：[影響なし]（調査間隔は10年）

現地写真

149-1 ハイマツ(低)群落



149-1 林況

149-2 ミヤマハンノキ群落



149-2 林況

149-3 ウラシマツツジ群落



149-3 林況

現地写真

149-4 コバイケイソウ群落



149-4 林況

149-5 ハイマツ(低)群落



149-5 林況

149-6 チングルマ群落



149-6 林況

現地写真

149-7 キバナシャクナゲ群落



149-7 林況

149-8 ハイマツ(低)群落



149-8 林況

149-9 チングルマ群落



149-9 林況

現地写真

149-10 タカネナナカマド群落



149-10 林況

ライチョウ



成鳥 (オス)



成鳥 (メス)

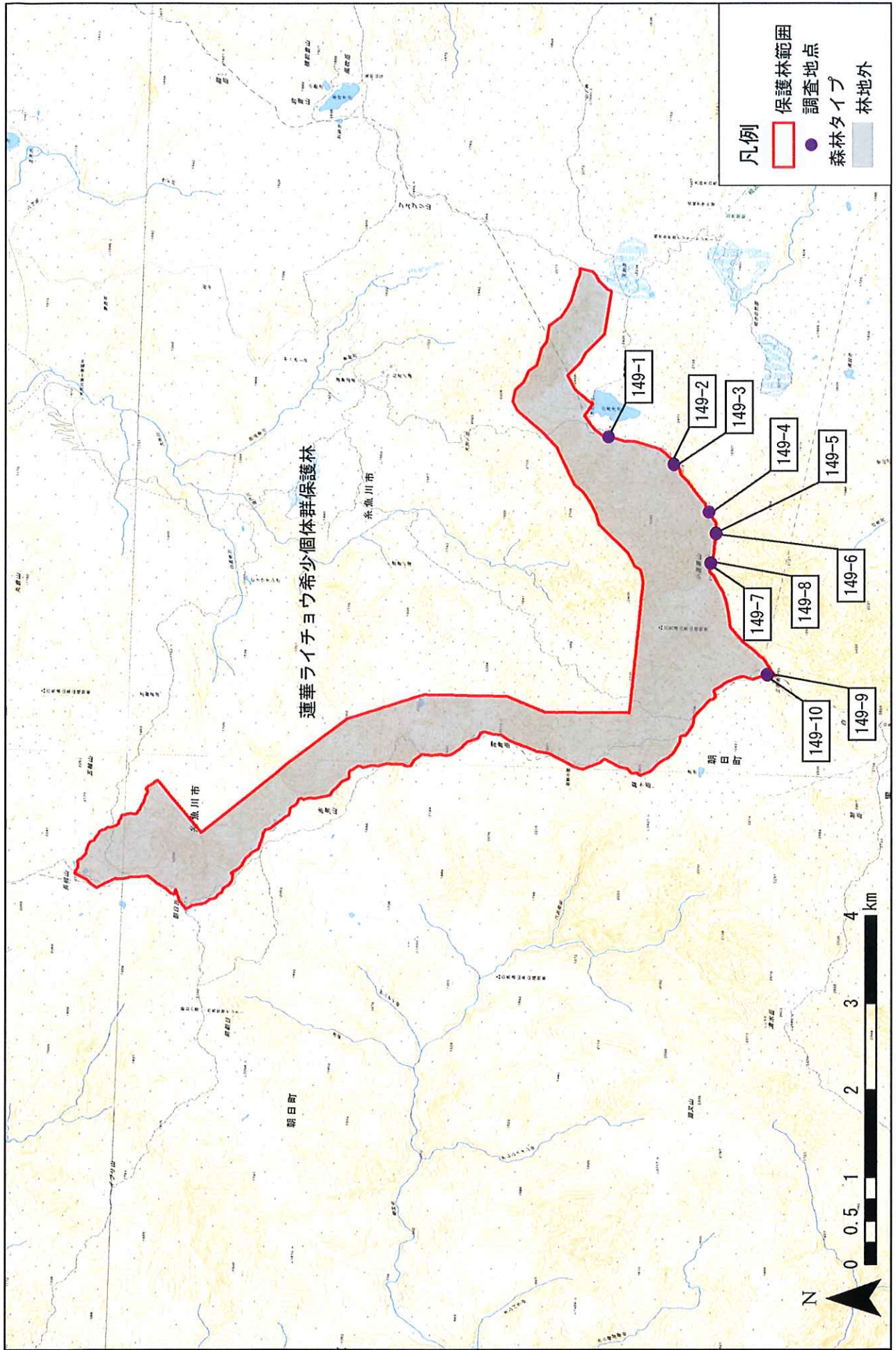
その他動物の状況



ホンドキツネ (糞)



テン (糞)



※電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成